

Vol.06
2021.4

刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Kariya city Museum of History NEWS

CONTENTS

Next Exhibition [次回展示] -----	1
Description [解説] -----	2
Report [報告] -----	3
Column&Info. [コラム&ご案内] -----	4

NEXT Exhibition 次回展示

「歴史へのいざない—佐藤コレクションの魅力—」

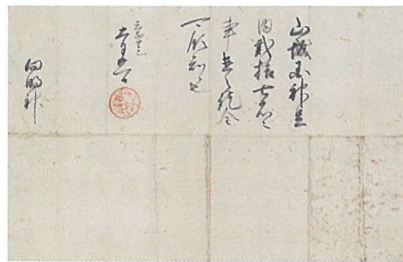
開催日 2021年4月24日(土)～6月6日(日)

佐藤峻吉^{しゅんきち}は、晩年を東境町で過ごした郷土史家・資料収集家です。峻吉収集の膨大なコレクションは、生前に刈谷市立刈谷図書館（現刈谷市中央図書館）や名古屋市博物館・京都国立博物館などに寄贈されました。

本企画展では、その中から貴重な品々をピックアップし、関連する資料も加えて、その歴史や背景について掘り下げます。また峻吉ゆかりの東境町泉正寺伝来資料や、西境・井ヶ谷の歴史についても紹介します。



▲晩年の峻吉 [東境町泉正寺蔵]



▲羽柴秀吉朱印状（天正 13.11.21 向明神宛）
[名古屋市博物館蔵]



▲峻吉の蔵書印

※記載内容は予告なく変更することがあります。

「伝月僊筆三国志図屏風」の時代背景について



▲ 伝月僊筆三国志図屏風（刈谷市歴史博物館蔵）

当館企画展「収蔵品展～受け継がれた刈谷の名品～」でお披露目した「伝月僊筆三国志図屏風」。本作は平成31年度に新たに寄贈を受けた作品であり、この度修復を行い、晴れてお披露目することができました。江戸時代中後期の画僧月僊の筆といわれ、三国志の英雄たちが個性的な出で立ちで描かれています。本稿では、本作について少し深掘りして解説したいと思います。

まず、なぜ三国志が題材に選ばれたのか。羅貫中の小説『三国志演義』（以下、『演義』）が日本に伝えられたのは、17世紀の初頭であると言われていいます。18世紀初めの元禄年間には日本語訳が出版され、その後、図版入りのダイジェスト版が次々に出版されました。また、当時流行していた浄瑠璃の題材にもなり、日本風にアレンジした洒落本も登場して、庶民の間にも広く三国志の物語が共有されるようになりました。滝沢馬琴の「椿説弓張月」にもその影響を受けたと思われる箇所が多くあります。三国志は江戸時代中後期の人々にとって、身近なものだったのです。

本作で描かれた人物について考察します。本作右隻には、右から劉備、諸葛亮、関羽、張飛、馬超、許褚、左隻には右から鄧艾、黄忠、太史慈、夏侯惇、趙雲、姜維の総勢12人が描かれています。国別に分けると、蜀が8人、魏が3人、呉が1人です。蜀が突出して多いのは、制作当時の時代背景があると考えられます。三国志について記された書物は、小説である『演義』以外にも、歴史書である陳寿著『三国志』（いわゆる、正史三国志。以下、『正史』）があります。『演義』は魏呉蜀の三国のうち蜀を正統な王朝としています。一方、『正史』は魏を正統な王朝としています。『正史』が魏を正統な王朝であるとするの

は、魏が後漢から禅譲を受けたからです。『正史』の著者陳寿は晋に仕えており、その晋は魏から禅譲を受けました。したがって、正統な王朝である晋に禅譲した魏もまた正統な王朝であるという論理です。対して、『演義』は後漢から魏への禅譲を魏の帝位篡奪であるとみなして正統な王朝としてみなさず、蜀の建国者劉備が後漢の皇帝である劉氏の一族であるという理由で、蜀を正統な王朝としています。したがって、『演義』は、蜀がいかにも素晴らしい国か、蜀を建国した劉備やそれを支えた諸葛亮、関羽などがいかにも優れた人物であるかを虚実織り交ぜて説明し、彼らを英雄視しました。このように、『演義』は蜀びいきであり、その影響を受けて、江戸時代の日本では蜀の人氣が高かったと考えられます。それが本作で蜀の人物が多く描かれている背景であると考えられます。

具体的な人選について述べます。蜀は、建国者であり初代皇帝の劉備、その軍師の諸葛亮、「五虎大将」と呼ばれる5人の大将（関羽、張飛、趙雲、馬超、黄忠）、蜀の末期に魏と対峙した姜維の計8人が描かれています。蜀の有名な武将たちが軒並み登場している一方、文官は諸葛亮以外描かれていません。続いて魏は、許褚、鄧艾、夏侯惇です。許褚は潼関の戦いで馬超と一騎打ちをした人物であり、鄧艾は姜維の侵攻を食い止め、逆に蜀侵攻時には間道を通って蜀の都成都にまで迫り蜀を降伏させた人物です。つまり、許褚と鄧艾はそれぞれ馬超と姜維の対になる人物であると考えられます。対して、夏侯惇は魏の猛将ですが、特に蜀とのかかわりはありません。しかし、夏侯惇は敵の矢が左目にあたり、それを食らって敵に突撃したという特異なエピソードがあり、その特異性ゆえに選ばれた可能性があります。

実際、本作で描かれている夏侯惇が矢を握っているのは、このエピソードを元にしていただろう。許褚、鄧艾、夏侯惇いずれも猛将で文官ではありません。呉で唯一描かれた太史慈は呉に仕える前に劉備のもとに使者として赴いています。太史慈も呉を代表する猛将です。

以上からわかることは、全体的に猛将が描かれており、その中でも蜀とかかわりのある武将が多く描かれているということです。

本作は、江戸時代中後期の人々が広く『演義』に親しんでいる状況と当時の人々の嗜好を如実に反映しているといえましょう。

(当館学芸員 五十嵐正也)

《参考文献》

- ・井上泰山「日本人と『三国志演義』—江戸時代を中心として—」(『關西大學中國文學會紀要』29号、2008年)
- ・雑喉潤『三国志と日本人』(講談社、2002年)



REPORT 報告

企画展「徳川家康の遺産～徳川美術館所蔵品で綴る～」

2020年10月3日(土)～11月15日(日)



▲ 徳川義崇氏講演会



▲ 武将体験

本展では徳川家康の遺産のうち、国宝「^{たち}太刀 ^{めいらいまごたろうさく}銘 来孫太郎作 / (花押) ^{かおう}正応五年 ^{しょうおう}壬辰八月十三日」や重要文化財「^{あさぎ}浅葱地 ^{じゆきもちぎさもんつじがはなぞめこそで}雪持笹文辻ヶ花染小袖」など、尾張徳川家に伝わった作品を展示しました。天下人である家康の莫大な遺産は、尾張・紀伊・水戸の御三家に贈与されましたが、そのうち尾張徳川家に継承されたものは散逸することなく、現在も徳川美術館に保管されています。

展示作品のうち国宝・重要文化財に指定されているものは4件ですが、指定されていない作品の中にも豊臣秀吉や筒井順慶^{じゆんけい}など著名な戦国武将の手を経てきたものや、家康が自ら蒐集した^{しゅうしゅう}ものなど、家康との縁を感じることでできる作品が数多くありました。

関連イベントとして、尾張徳川家22代当主徳川義崇氏による講演会の他、復元した甲冑を着用する武将体験などを行うことができました。コロナ禍で参加者数を制限させていただくこととなりましたが、参加された方からはご満足の声を多くいただきました。

最後になりますが、本展の開催にあたり徳川美術館の方々には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

(当館学芸員 長澤慎二)

Column コラム



▲ 1964年刈谷の聖火リレーの様子 [個人蔵]

1964年、東京オリンピック開催に伴い、遠くギリシャから大陸を経て日本に運ばれた聖火が、開催地である東京に向かって日本中を駆け巡りました。刈谷でも走者が聖火を高らかに掲げ、東へと走り次の走者へとつなげていきました。

当時の写真からは、多くの人が沿道に集い、その様子に胸を躍らせながら見守っている様子が伝わってきます。

ミニ企画展「思い出の一九六四～聖火が刈谷を駆けぬけた日～」

開催日 2021年3月23日(火)～4月11日(日)

Information ご案内

2021年度企画展スケジュール

2021年4月24日(土)～6月6日(日)

「歴史へのいざない—佐藤コレクションの魅力—」

2021年7月17日(土)～8月29日(日)

「戦時下の刈谷一人びとの暮らしと記憶—」

2021年10月9日(土)～11月21日(日)

「豊臣秀次展—刈谷に新時代をもたらした関白殿下—」

オリジナルグッズ

博物館オリジナルグッズを販売中！
新作も徐々に増えています。



▲ メモ帳

▲ 絵はがき

※ 歴史博物館受付にて販売中です。

カレンダー

2021

4	日	月	火	水	木	金	土	5	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3		2	3	4	5	6	7	8
4	5	6	7	8	9	10		9	10	11	12	13	14	15	16
11	12	13	14	15	16	17		16	17	18	19	20	21	22	23
18	19	20	21	22	23	24		23	24	25	26	27	28	29	30
25	26	27	28	29	30			30	31						

6	日	月	火	水	木	金	土	7	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5					1	2	3	
6	7	8	9	10	11	12		4	5	6	7	8	9	10	
13	14	15	16	17	18	19		11	12	13	14	15	16	17	
20	21	22	23	24	25	26		18	19	20	21	22	23	24	
27	28	29	30					25	26	27	28	29	30	31	

歴史へのいざない—佐藤コレクションの魅力—

戦時下の刈谷一人びとの暮らしと記憶—

休館日

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時

観覧料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料

企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

鉄
道

JR 東海道本線 逢妻駅 から徒歩約15分
名鉄三河線 刈谷市駅

バ
ス

刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷線・逢妻線
「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分

お
車

伊勢湾岸自動車道
名古屋南ICまたは豊田南ICから
約20分

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、またはTwitterをご確認ください。

※ 当館の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の詳細についてはホームページをご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1

TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108

URL : <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>



◀ 当館ホームページ
企画展・イベントの詳細や、博物館NEWSのバックナンバーを掲載しています。



◀ 公式Twitter
最新の情報やイベントの告知など、時々呟いています。

※ QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。